＜小学校　生活＞

一人一人の思いや願いを生かす学習展開の工夫

ー地域素材（佐敷干潟）の教材化を通してー

佐敷町立佐敷小学校教諭　新　崎　蘭　子

内容要約

一人一人の思いや願いを生かした学習展開をめざして，児童が興味や関心を喚起するような地域素材（佐敷干潟）の教材化を試みた。

小単元ごとに児童の思いを生かすためのオリエンテーションを設定し，四季を通した単元計画，他教科等との合科的・関連的な指導，地域人材や父母ボランティアの活用，発表意欲を高めるための工夫等を行うことにより，児童の思いを実現する学習活動の展開ができた。

【キーワード】　地域素材　　思いや願い　　意識の流れ　　他教科等との関連　　地域人材活用

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 …… 41

Ⅱ　研究内容 …… 42
　1　一人一人の思いや願いを生かす学習展開の工夫 …… 42
　2　地域素材の洗い出しと教材化 …… 42

Ⅲ　授業実践 …… 44
　1　単元名 …… 44
　2　単元について …… 44
　3　単元の目標 …… 45
　4　指導計画と評価計画 …… 45
　5　本時の指導計画 …… 46
　6　授業仮設の検証 …… 48

Ⅳ　研究の考察 …… 48
　1　身近な地域素材(佐敷干潟)の教材化 …… 49
　2　単元構成の工夫 …… 49
　3　児童の意識の流れにそった学習計画の工夫 …… 49
　4　表現意欲を高めるための工夫 …… 50

Ⅴ　研究の成果と今後の課題 …… 50
　1　研究の成果 …… 50
　2　今後の課題 …… 50

＜小学校　生活＞

一人一人の思いや願いを生かす学習展開の工夫

―地域素材（佐敷干潟）の教材化を通して―

佐敷町立佐敷小学校教諭　　新　崎　蘭　子

Ⅰ　テーマ設定の理由

小学校学習指導要領では，生活科の教科目標を１・２年共通とし「具体的な活動や体験を通して，自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもち，自分自身や自分の生活について考えさせるとともに，その過程において生活上必要な習慣や技能を身につけさせ自立への基礎を養う。」と示している。生活科の目標の改善においても，具体的な活動や体験を重視することが改めて強調された。それは，自然環境や社会環境の大きな変化にともない，児童の学力や体力の低下，非行の低年齢化，いじめや不登校などの問題が増加してきていることから，豊かな人間性を育むべき時期の教育において，自然体験や社会体験等の直接体験活動を充実させることが重要だと受け止められる。

児童はこれまで生活科の活動において，アサガオやキュウリ等の栽培をしたり，小動物や昆虫との触れ合いを体験したりしてきている。本学級の児童は虫の図鑑を楽しそうに見入っていたり，昼休みに捕ってきた虫を教室に持ち込む姿も見らる等小動物への関心を示す子も多い。また，本町に存在する佐敷干潟はトカゲハゼやシオマネキなど数多くの生き物が生息する干潟として知られている。しかし，生活科の学習素材として地域の自然環境を十分に洗い出すことができず，児童の興味や関心に合わせた適切な教材を適時に提供することができなかった。また，単元の内容が単発的なものが多く児童の興味・関心を持続させることができなかったことや，児童理解の不足から一人一人の思いや願いにあった適切な支援ができなかったことも反省点に挙げられる。そこで今回，以下の理由で地域素材である佐敷干潟を教材化したいと考えた。まず，干潟は児童が土・水・砂などの自然物に触れ，五感をフルに活用した体験ができる。また，そこに住む豊富な生き物たちと四季を通してかかわり，年間を見通してシリーズ化した教材を取り入れることで，季節による様々な変化にも気付きを深めることができる。さらに，特色ある地域の自然に触れることを通して自然を大切にする心や命ある物へのいたわりの心が育ち，自分を取り巻く地域に対しても愛着を寄せることも期待できる。そして，身近な自然と直接かかわる活動や体験を繰り返していく中で，自分を見つめ自分のよさや可能性に気づき，意欲や自信の持てる子どもに育つことも期待できる。

低学年の児童は，同じ場で同じような活動をしていても対象物とのかかわりにおいて，一人一人の物の見方や考え方，感じ方が違っている。生活科は児童の生活を基盤にし，発達上の特徴を生かした学習活動を展開して自立への基礎を養うことを目指していることから，児童の側に立ち一人一人の児童のよさや可能性を伸ばしていかなくてはならない。そのためには，一人一人の子どもらしい考え方に共感し，子どもが考え出そうとすることを認め育てていく中で，思いを実現させていける学習展開が望まれる。

これまでの指導の反省や児童の実態から，一人一人の思いや願いを生かす学習活動を展開するためには身近な地域の素材を生かした児童の興味や関心のある教材と出会わせることや，児童の学習意欲が持続・継続できるような単元構成を工夫し，児童の思いがかなうような学習活動を取り入れることが大切だと考える。

そこで，児童の興味・関心を喚起するような地域素材の教材化をすすめ，児童の意識の連続性が図れるような年間を見通した単元構成の工夫と，児童の思いや願いを尊重した学習計画の工夫をすれば，一人一人の思いや願いを生かした学習活動が展開できるものと考え，本テーマを設定した。

＜研究仮説＞

児童の興味や関心を喚起するような地域素材を教材化し，年間を見通した単元構成と児童の意識の流れにそった学習計画を工夫すれば，一人一人の思いや願いを生かした授業が展開できるであろう。

Ⅱ　研究内容

1　一人一人の思いや願いを生かす学習展開の工夫

(1) 子どもの思いや願いを生かした 指導計画のあり方

学習の対象への子どもたちの興味・関心は多様であり，そこで抱く思いや願いには個性豊かなものがある。その子どもの思いや願いの実現に向け，生活科の学習では，一人一人の子どもの思いや願いを尊重した授業が展開されなければならない。したがって，指導計画の作成に当たっては，学習計画の段階からそれぞれの思いを取り入れ，活動や体験が発展していく過程においても，一人一人の思いや願いにそって子ども自身が学習材や学習活動を自己選択できるようにすることや，活動の場の保証と時間的なゆとりを与える。また，一人一人の子どもが繰り返しかかわったり，継続・発展したりしていけるような環境の整備を行う。さらに，家庭・地域との協力や連携が図れるような支援体制を整え，柔軟で弾力的な学習が展開できることが重要となる。

(2) 子どもの視点に立った単元計画作成のポイント

① 子どもがやってみたい活動であるか

子どもの興味・関心や意識の流れにそって「やってみたい」「行ってみたい」「触ってみたい」などと体を動かしたくなるような活動や「見たい」「作りたい」「調べたい」と思えるような素材を取り入れる。

② 目的意識がはっきり持てる活動や体験であるか

「遊ぶために作るんだ」「競争するために作るんだ」「○○するために調べよう」というような目的意識がはっきりしている活動を取り入れる。

③ 工夫するともっとおもしろくなる活動であるか

子どもの「○○しよう」「○○を作ろう」という興味や関心を持続させ「どこをどうすればいいかな」「こうやったらいいかな」「つぎは○○しよう」という子どもなりの工夫や努力が生かされ，広がっていく活動を取り入れる。

④ 友達とかかわりをもちながら活動できるものであるか

友達と相互に刺激し合ったり，協力しあったりする場が多様に生まれる活動を取り入れる。

⑤ 成就感を味わうことができる活動であるか

「○○に見せたい，おしえたい」というような表現活動に発展し，「とうとうやった！」「自分でできた」というような満足感や成就感を味わうことができる活動であるか。

(3) 学習計画(オリエンテーション)の工夫

子どもたちが思いや願いをもって活動を展開していくためには，学習計画を立てる段階(オリエンテーション)において，一人一人の思いを十分に出させることが大切である。そこで，導入の段階では，児童のつぶやきからきっかけをつかみ，子どもの過去経験調査や活動希望調査等の事前アンケートと合わせて子どもの思いを取り入れる。また，活動計画を立てる段階においては「次はどんなことをしたいか」「いつごろいくか」「思いっきり楽しむためにはどんなことをしたらよいか」「ほかの勉強でもできることはないか」「もどってきたらどんなことをしたいか」「この勉強に名前を付けよう」などと問いかけたり誘いかけたりして，子どもたちの思いや願いが存分に引き出せるように，学習計画を工夫する。

2　地域素材の洗い出しと教材化

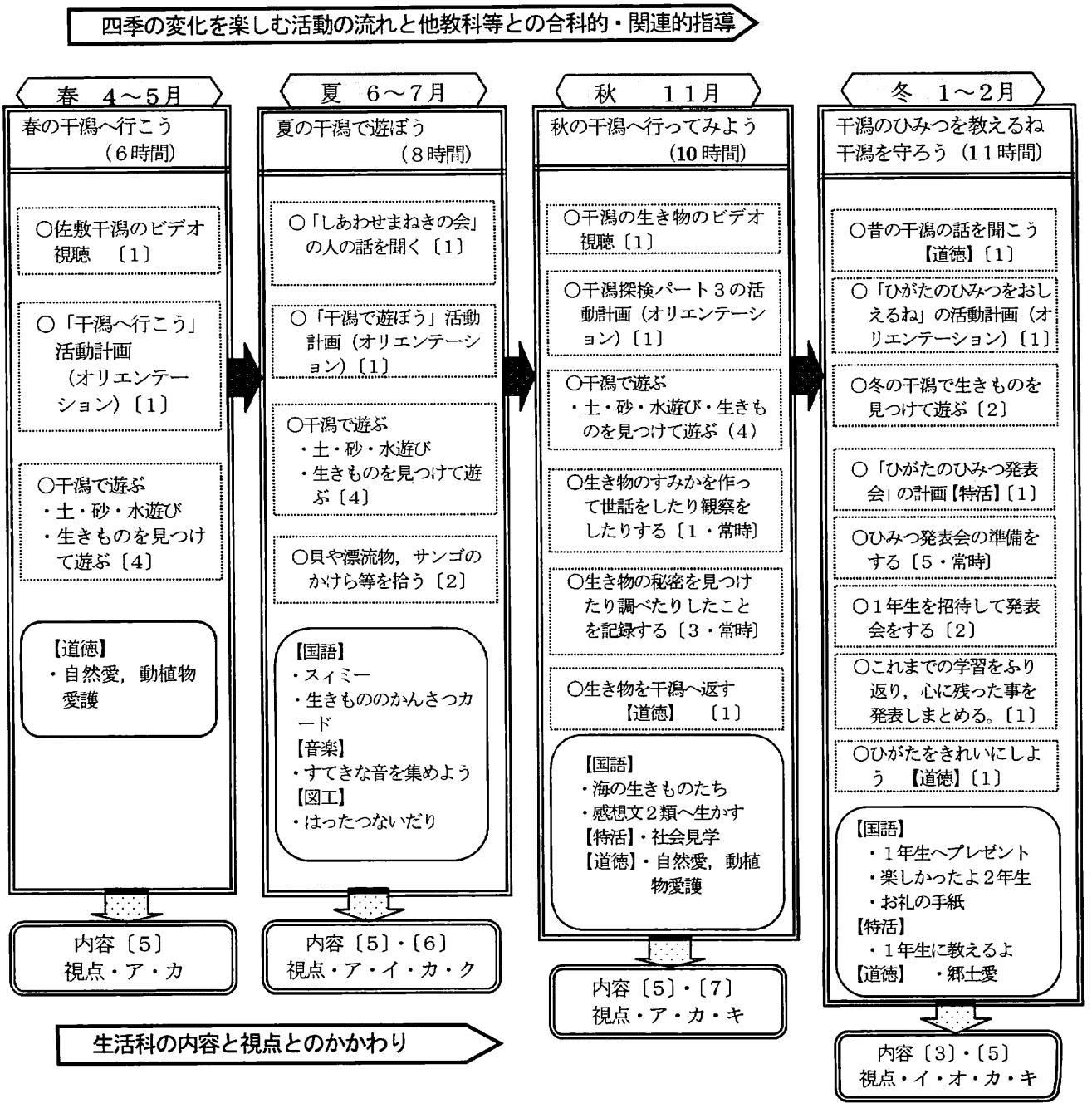
生活科は，子どもの生活圏である身近な地域社会や自然を学習の場や対象としている。つまり生活科の授業は教室の中だけにとどまらず，校内はもとより，学校の周りや地域へと学習の場や対象は広がるべきである。したがって，身近な環境に子ども一人一人が進んでかかわり，自分らしい課題や意図などを見つけ，自分のよさや可能性を発揮して充実した学習活動が展開できるような豊かな素材を選択し，教材化することが重要になる。

なお，教材化するに当たっては，子どもたちの発達的特性や一人一人の興味・関心などに十分配慮しながら，子ども一人一人が思いをよせて積極的にかかわることができるように，人間，自然，社会，文化などの中から適切な素材を選ぶようにすることが大切である。

(1) 地域素材を教材化する視点

①生活科の指導目標を達成するための内容を含むもの
②子ども一人一人が興味・関心や意欲を持って取り組めるもの
③子どもの発達段階に無理がなく，五感を使って活動ができ，多様な活動ができるもの
④活動に没頭し，一つの活動から次の活動へと広がりが持て，活動の選択に幅があるもの
⑤子どもの身近にあり，繰り返しかかわることができるもの
⑥安全に活動でき，子どもなりに手応えのあるもの
⑦子どもが自分の生活に生かすことができ発展性のあるもの
⑧季節による変化や成長の様子がはっきり分かるもの
⑨身近な人とのかかわりを広めたり，深めたりできるもの

(2) 四季を通してシリーズ化を図る単元計画の工夫



(3) 佐敷干潟の教材化

佐敷干潟は，沖縄本島南部にあり，中城湾の湾奥に位置する。約３万年の歴史があり，近くの山の土が流れ出て佐敷湾独特の泥質干潟ができた。この干潟には，絶滅が危惧されているトカゲハゼや琉球列島ではここにしかいないシオマネキなどの貴重種をはじめ，多くの生き物が生息し，遠いシベリアやオーストラリアからくる渡り鳥の休息地にもなっている。

《干潟の価値》

○川から栄養分が運ばれ，太陽の光が十分に届くため生産性が非常に高く，魚貝類の産卵や生育の場となり，渡り鳥のエサ場や休息地ともなる。また，貝やカニ類が砂を食べその成分や微生物をこしとるという役目を果たしていることから浄化作用も備わっている。さらに，最良の生きた環境教育の場であるとも言える。

《場所》

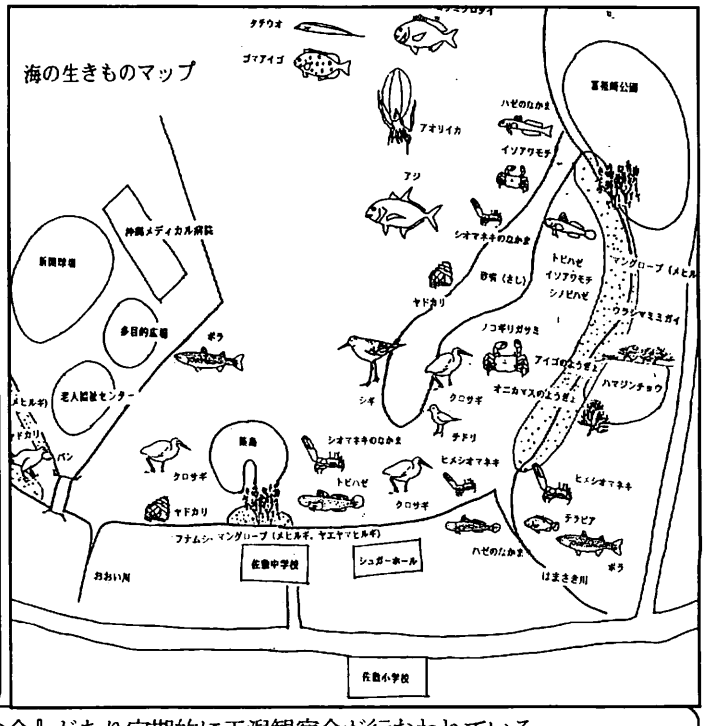
・学校から歩いて１０分程で着く。
・干潟の範囲が広く４，５時間はゆっくり遊べる。
・砂州に渡るには最干潟時が良い。

《予想される児童の活動》

①土・砂・水遊び
②生き物の観察
③生き物とかかわる
④貝・サンゴのかけら・漂流物拾い
⑤潮干狩りの人や貝取り名人とのかかわり等

《時間帯》

・最干潟時より２時間程前がちょうど良い。潮が引き始めたらカニ類の仲間が活動を始める。
○春～秋までの暖かい期間は，右図のような多数の生き物が観察できる。
○冬場の寒い時期は，潮が引いた直後にコメツキガニが表出する程度で，他の生き物はなかなか出てこない。(風のない暖かな日は冬でも見られる。)
○冬場は渡り鳥の観察ができる。



《人材》・・・・・地域には『しあわせまねきの会』があり定期的に干潟観察会が行なわれている。
また，町内には干潟の専門家が数名おり，地域ボランティアとして活用できる。

《しあわせまねきの会・ホームページ》 http://ne.jp/asahi/siawasemaneki/sasiki/

《図書リスト》・・・別紙参照 e-mail:siawasemaneki@v.email.ne.jp

Ⅲ 授業実践

1 単元名　しぜんのなぞなぞさがそうよ　－ひがたたんけん－

2 単元について　― 内容（3）（5）（6）（7）　視点 ア・イ・オ・カ・キ・ク ―

（1）教材観　(省略)　（2）児童観　(省略)

（3）指導観

生活科は，子どもが体全体で学び，一人一人が主人公となる授業を目指したい。そこで，一人一人の思いや願いを生かす授業を展開するためには，子どもがつぶやく発想を大切にしながら学習計画を作成し，小単元ごとに活動計画を組み入れていく。また，子どもの興味や関心が持続し発展していけるように活動や体験の場を多く取り入れ，十分なかかわりが持てるように活動の時間にゆとりを持たせたい。さらに，活動の意欲を高めるために，干潟の状態を十分に把握し身近な自然や多様な生き物とかかわる活動を繰り返す中で，季節の移り変わりを感じ取らせたり，生き物への親しみを深め，命あることの尊さに気付かせたり，自然と一体となって遊ぶ楽しさ，体全体で自然に浸る心地よさを味わわせたい。また，ワークシートや発見カードなどの活用や発表会における表現活動を通して自分のよさや友達のよさにも気付かせ，意欲や自信の持てる子に育てたい。そして，他教科等との合科的・関連的な指導を図り，地域の人材やボランティアを活用して，個に応じた支援を行ったり，異年齢交流の場を設けたりして，子どもの思いや願いを生かす指導の効果を高めていきたい。

3　単元の目標

○身近な自然に関心を持ち，佐敷干潟に進んでかかわり観察することができる。【関心・意欲・態度】

○干潟で遊んだりそこにすむ生き物とのかかわりを通して，発見したことや驚いたこと，観察したり調べたりして分かったことを自分なりに表現することができる。【思考・表現】

○干潟の特徴や，そこにすむ生き物には生命があること，自然の変化や季節の変化に気付くことができる。

4　指導計画と評価計画　（しぜんのなぞなぞさがそうよ）　【気付き】

過程	小単元名〔時数〕　児童の意識の流れ	活動内容 他教科との関連	○評価規準（評価方法）【評価の観点】 ☆できた子　★努力を要する子への手だて
4月であう	1，春のひがたへ行こう〔6〕 (1)オリエンテーション (2)ひがたをたんけんしよう ・ひがたに行ってあそびたいな。どんな生き物がいるのかな ・ひがたって，どろどろしているぞ ・カニが，いっぱいいるよ。なんて名前かな。	①佐敷干潟にすむ生き物についてのビデオを見たり話を聞いたりして干潟の様子に関心を持ち探検について期待をもつ。〔1〕 ②「干潟へ行こう」の計画を立てる。（オリエンテーション）〔1〕 ③干潟で遊んだり生き物を見つけたりする。〔4〕〈地域人材活用〉 〈TT・父母ボランティアの活用〉 道：自然愛，動植物愛護〔1〕 ④楽しかったことをワークシートに書く。	○干潟の生き物についてかかわりを持とうとしている。【関心・意欲・態度】 （事前アンケート・つぶやき・行動観察・発言） ☆干潟で遊んだ体験を発表させる。 ★経験のある子の話を聞かせる。 ○干潟で遊んだり生き物を見つけたりしようとしている。【関心・意欲・態度】 （つぶやき・行動観察・ワークシート） ☆いろいろな生き物を紹介する。 ★道具を貸したり，仲間に誘ったりさせる。
7月かかわる	2，夏のひがたで遊ぼう〔8〕 (1)活動計画を立てよう (2)ひがたのおくりもの (3)ひがたで遊ぼう ・あつくなってきたから生き物がたくさんいるだろな ・どんな貝がいるのかな？きれいな貝を見つけよう。どんなかざりや楽器を作ろうかな ・水のながれが，はやいな。ここの土はベトベトだぞ。 ・カニのたいぐんだあ。シオマネキがいっぱいいるよ	①「しあわせまねきの会」の人の話を聞く。〔1〕 〈地域人材の活用〉 ②「干潟で遊ぼう」の計画をたてる。〔1〕 ③つき島まで行って貝や漂流物やサンゴのかけら等を拾う。〔2〕 〈TT・父母ボランティアの活用〉 図：はったりつないだり〔2〕 音：すてきな音をあつめよう〔1〕 ④干潟で生き物を見つけたり砂・土・水遊びをしたりする。(4) 〈TT・父母ボランティアの活用〉 ⑤楽しかったことをワークシートに書く。 国：・スイミー〔1〕 ・生き物の観察カード〔2〕	○干潟の自然に関心を持ち，親しんだり大切にしたりしようとしている。【関心・意欲・態度】 （つぶやき・発言・ワークシート） ☆活動計画表を作らせる。 ★「しあわせまねき」のホームページを見せる。 ○自然物を生かして作ったり遊んだりすることができる。【思考・表現】 （作品・行動観察） ☆自然物の特徴を生かし自分なりに工夫した物を作らせる。 ★道具を貸したり，材料を提供したり本を見せたりして作らせる。 ○生き物を探したり触ったり自然の物と一体となって遊ぼうとしている。【関心・意欲・態度】 （行動観察・つぶやき・ワークシート） ☆場の状況や特徴にも気づかせる。 ★道具を貸したり，友達に誘いかけたりさせる。
11月ひろげる	3，秋のひがたへ行ってみよう〔10〕 (1)活動計画を立てよう (2)ひがたたんけんパートⅢ ・ひがたの生き物たちどうしているかな。もっとくわしくかんさつしたいな。 ・ひがたでは，どんなところにいたのかな？・水や砂はどのくらい入れたらいいのかな？	①干潟の生き物についてビデオを見る。〔1〕 ②干潟探検パート３の計画を立てる。〔1〕 ③干潟の生き物を見つけて遊ぶ。〔4〕 〈TT・父母ボランティアの活用〉 ④楽しかったことをワークシートに書く。 ⑤生き物のすみかを作って観察したり世話をしたりする。 〔1・常時〕	○身近な自然を観察しようとする意欲を持つ。【関心・意欲・態度】 （つぶやき・発言・ワークシート） ☆地域の自然のよさを感じ取らせる。 ★夏の干潟の様子を思い出させる。 ○干潟の自然の様子や生き物のすんでいる場所の様子に気付いている。【気付き】 （つぶやき・行動観察・ワークシート） ☆生き物の特徴や生育環境に気付かせる。 ★生き物に一緒に触れる。 ○生き物の好む環境を作り，適切にかかわることができる。【思考・判断】 （行動観察・日記） ☆自然の中では，どのような状態にあったか考えさせる。 ★飼い方の本を紹介する。

	(3)生き物のすみかを作ろう (4)とってきた生き物を観察しよう ・コメツキガニがかいてんしながらもぐったよ。 ・なんだか元気がなくなってきたよ。ひがたにかえそうよ。	⑥生き物の秘密を見つけたり調べたりしたことを記録する。〔3・常時〕 国：海の生き物たち〔1〕 感想文２類へ〔1〕 特：社会見学（漫湖・水鳥・湿地センター見学） ⑦生き物を干潟へ還す。 道：自然愛，動植物愛護〔1〕	○観察したり遊んだりして気付いた事や感じた事などを記録することができる。【思考・判断】 （ワークシート） ☆毎日の日記にも書いたり，家の人にも知らせたりさせる。 ★生き物の本を参考にさせる。
1月 ひろげる	4，ひがたのひみつをおしえるね〔10〕 ・昔のひがたってどんなだったのかな？ (1)むかしのひがたの話を聞こう (2)活動計画を立てよう (3)冬のひがたを見てみよう ・発表会で一年生にも見せたいな。 ・カニたちも冬みんしているのかな？・秋より少ないよ。 (4)発表会の計画を立てよう ・紙しばいや，クイズで発表したいな。・一年生に何かプレゼントしよう。 (5)発表会の準備をしよう ・見やすいように大きく書こう。 ・発表することを，一人ずつ分けようよ。 (6)「ひがたのひみつ発表会」をしよう 【本時の展開】 ・しつもんにちゃんと答えられるかな？	①昔の干潟の話を聞く。 （地域人材の活用） 道：郷土愛「ぼくの町も光ってる」〔1〕 ②「ひがたのひみつをおしえるね」の計画を立てる。〔1〕 ③冬の干潟で生き物を見つけたり遊んだりする。〔2〕 （TT・父母ボランティアの活用） ④楽しかったことをワークシートに書く。 ⑤発表会の計画をたてる。 特：一年をふり返って，一年生に教えるよ。〔1〕 ・ひみつ発表会の内容，プログラム，役割等を決める。 ⑥ひみつ発表会の準備をする。〔5・常時〕 ・観察したことや世話した生き物の様子，干潟の様子等絵本やクイズ等にまとめ準備や練習をする。 国：一年生へプレゼント〔2〕 楽しかったよ二年生〔2〕 ⑦ひみつ発表会をする。〔2〕	○自分の住んでいる地域には，すばらしい自然があることに気付くことができる。【気付き】 ☆祖父母の話もきいてこさせる。 ★昔の干潟の写真等を見せる。 ○生き物やそれらの育つ場所，変化の様子に関心を持ち自然を大切にしようとしている。【関心・意欲・態度】 （つぶやき・ワークシート） ☆四季の変化と関連付けて考えさせる。 ★秋や夏の活動を振り返させる。 ○発表会を楽しくしようとしている。【関心・意欲・態度】 （つぶやき・発言） ☆一年生に詳しく教えられるように意欲付ける。 ★これまでのワークシートで振り返らせる。 ○観察したり遊んだりして分かったことを協力しながら準備することができる。【思考・判断】 （行動観察・つぶやき・作品） ☆分かりやすい発表になるように練習させる。 ★製作の役割分担をさせる。
2月 ふり返る	5，ひがたをまもろう〔1〕 ・ひがたの生き物がすめなくなったらかわいそうだな。 (1)たのひみつをまとめよう (2)ひがたをきれいにしよう ・佐敷のひがたをいつまでも大切にしたいな。 ・いろんな人に，おせわになったね。おれいの手紙を書こう。	①これまでの学習をふり返心にのこったことを発表する。〔1〕 ②お世話になった人へお礼の手紙を書く。 国：お礼の手紙 ごみ拾いをする。〔1〕 道：郷土愛	○身近な自然のすばらしさに気付き，自然を大切にしようとすることができる。【気付き】 （発言・つぶやき・ワークシート） ☆これから自分たちにできそうなことを発表させる。 ★一緒にごみ拾いをがんばったことを賞賛する。

5　本時の指導計画

（1）本時のねらい

○干潟で遊んだり観察したり調べて分かったことなどを，自分なりの方法で表現することができる。

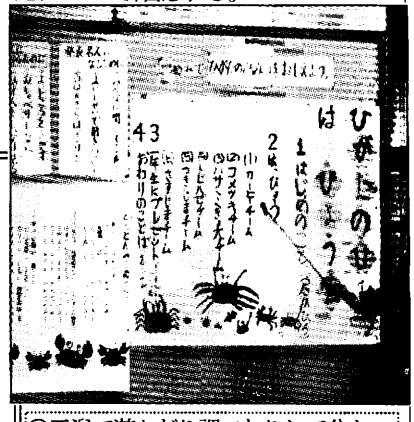
○自分や友達のよさに気付き，発表を聞いて新たな気付きをもつことができる。

（2）本時の授業仮説

○児童の意識の流れを見取った支援を行えば，一人一人の思いや願いを生かした表現活動ができるであろう。

（3）準備　　（省略）

（4）展開の実際

過程	主な活動と意識の流れ	教師の支援　　○評価　☆手だて★
つかむ	1．本時のめあてを確認する。 ひがたのひみつをおしえよう。 ・発表をがんばるぞ。・一年生を楽しませよう。 2．発表会の進め方を確認する。 3．プログラムにそって発表する。	・めあてを確認させ，発表会への意欲をもたせる。 ・一年生を招待し，二年生の学習の楽しさを伝えることで発表の意欲を持たせる ・干潟の観察を通してたくさんの気付きがあったことや，友達と協力して発表の準備を進めてきたことを賞賛し，これからの発表に意欲を持たせる。 ・聞く態度や発表のしかた，資料提示のしかたについて確認する。 ・会の進行がスムーズにいくよう支援する。 ・分からないところは質問をしたり，友達のよかったところや新たに分かったこと等の感想を述べたりすることを確認する。
活動する	・ひみつをわかりやすくおしえたいな。 ・大きな声で発表しよう。 4．質問に答える。 ・どんな質問がでるのかな？グループのみんなで協力して答えよう。	《プログラム》 ひがたのひみつ発表会 一・はじめのことば ・しかい（　） 二・みんなでうたおう（とんとんみーの歌） 三・グループの発表 ①ひがたぜんたいのようす（マップ・絵） ②コメツキガニ（動作化・劇） ③しおまねき（クイズ） ④とびはぜ（マップ・ペープサート） ⑤むかしのつきじま（新聞・クイズ） ⑥さすじまの貝とサンゴ（標本・実物） 四・一年生へのプレゼント 五・おわりのことば  ○干潟で遊んだり調べたりして分かったことを自分なりの方法で表現することができる。【思考・表現】（作品・発表・行動観察） ☆思いや願いも込めて発表させる。 ★グループ内で発表を分担させる。
	 ・一人一人の発表がうまく表現できるように支援する。 ・生きものの動き方や体の特徴を発表するチーム → ・動作化・劇・お面・クイズ・ペープサート等で表現 ・生き物のすむ場所や砂の特徴や水の温度を発表するチーム → ・マップ・実物・吹き出しカードで表現 ・貝やサンゴの名前と特徴を発表するチーム → ・マップ・標本・実物で表現 ・昔の干潟の様子や生き物の名前を方言で紹介するチーム → ・新聞・クイズで表現 ・不安そうな児童は，教師が寄り添って一緒に発表させる。 ・答えられない質問はグループのみんなで答えさせる。 ・声の小さい児童は二人で読ませる。 発表につまずく児童への支援 ・自信のなさそうな児童は説明を文に書いたのを読ませる。 ・説明の足りないところは，グループのみんなで補足させる。 うなずく・励ます・相づち GOODサインをおくる。	
	5，一年生にプレゼントをわたす。	・自分たちで作ったサンゴ風鈴であることや，お手紙をそえてあることを説明させ成就感を味わわせる。 《一年生退場》・（BGM：とんとんみーの歌に合わせて拍手で退場させる。）
振り返る	6，今日の感想を発表する。 7，教師の話を聞く。	・感想を述べる場を設け，自分の頑張ったことや友達のよさにも気付かせ，成就感を持たせる。 ・質問や感想を述べた子を賞賛する。 ・いろいろなまとめ方があることや工夫した表現方法があったことを賞賛する。 ○自分や友達のよさに気付き，発表を聞いて新たな気付きを持つことができる。【気付き】（発表・自己評価） ☆自分や友達と比べてどんなところが良かったのかを言わせる。 ★おもしろい発表に拍手をさせる。

6　授業仮説の検証

〈本時の授業仮説〉
○児童の意識の流れを見取った支援を行えば，一人一人の思いや願いを生かした表現活動ができるであろう。

今回の授業実践は，四季のうち秋と冬の小単元を扱い検証授業においては「発表会」の場を実践した。生活科の表現活動は，自分が感動したことや気付いたことを伝えるのにふさわしい方法を自分で選んで表現することである。また，活動するだけにとどまらず気付きや感動を共有したり互いのよさを認め合ったりする活動が大切にされなければならない。そこで，児童の「発表会」を通して伝えたいという意識を見取り，支援の工夫を行った。

(1) 希望にそった発表のグルーピング

発表会の計画を子どもと一緒に立て，一人一人が発表したい内容の希望にそってグルーピングした。その結果，グループ内で発表計画を話し合う場においても，お互いが意見を交わし合い，子どもなりの発想で表現方法を選択し，役割分担もスムーズにできた。

(2) 表現方法の多様性を引き出すための支援の工夫

表現の方法としては，教師が一方的に押しつけることなく，子どもたちの発想を生かし効果的な方法を支援することで，実物や標本を見せたり，マップに吹き出しを貼ったり，ペープサートや新聞・絵本・クイズ・劇化動作化・など，多様な表現方法で自分なりに表現することができた。

【一人一人の思いや願いを生かし，多様な表現活動が展開できた】

Ⅳ　研究の考察

〈研究仮説〉
○児童の興味や関心を喚起するような地域素材を教材化し，年間を見通した単元構成と児童の意識の流れにそった学習計画を工夫すれば，一人一人の思いや願いを生かした授業が展開できるであろう。

本単元は，四季を通して，繰り返し干潟にかかわりが持てるように計画し，今回は秋から冬の展開を実践した。

1　身近な地域素材（佐敷干潟）の教材化

○他教科等との合科的・関連的な指導の効果

プレゼント作りは，干潟で拾ってきたサンゴの素材を生かして製作することができ，図工科としてのねらいが達成できたことや，一年生に手作りの風鈴をプレゼントしたことで，二年生としての自覚が高まり，成就感や満足感を味わわせることができた。また国語科においても「一年生に伝える」という目的を持たせることで，生活科での共通体験が「話す・聞く」や「書く」活動として扱うことができ，児童にとっても素材や題材がはっきりと捉えられ学習が進めやすかった。さらに，道徳においても身近な地域を素材として扱うことができ，実践へと結びつけることができた。このように他教科の内容を洗い出し合科的・関連的な指導をすることで，時間にゆとりをもった活動の展開ができ，児童の「もっと～したい」という思いや願いを実現させることへとつながった。

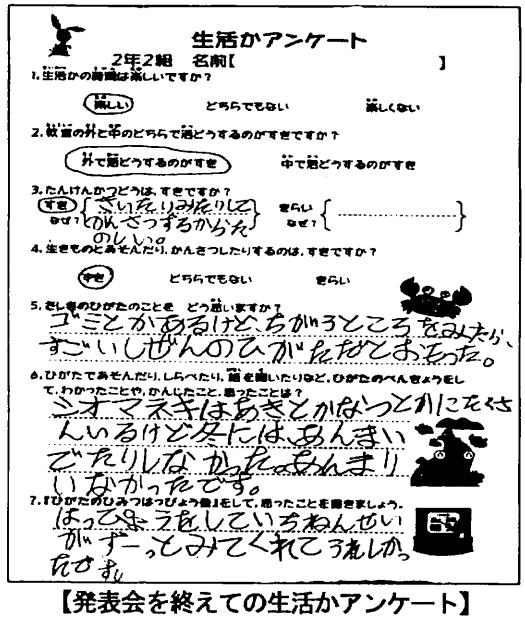
○地域人材や父母ボランティア活用の効果

地域人材として「しあわせまねきの会」の干潟の専門家に協力してもらうことで，佐敷干潟に生息する生き物や干潟の特徴，基礎的な干潟観察の予備知識等を身につけることができ，児童にゆとりを持って支援することができた。また祖父母を活用することで，昔の干潟にも意識を向けさせ特色ある地域の干潟に愛着を寄せ，大切にしようとする心がめばえた。さらに，父母ボランティアを活用したことは，多様なグループ活動の安全を保障することにつながり一人一人が思い思いに干潟にかかわる授業展開ができた。

2　単元構成の工夫

○秋・冬と繰り返して干潟にかかわらせた効果

干潟に「秋」・「冬」と季節を重ねてかかわらせたことで，直接体験を通して秋と冬の比較ができ，季節による干潟の違いを体得することができた。それと同時に，干潟にすむ生き物に対して身近な生き物として関心を寄せ接するようになったことは，自然を大切にする心や生命を大切にする心を育み，さらには地域への愛着を深めることにもつながった。それらのことは，何度も繰り返し干潟にかかわらせたことによって，児童の「次は～してみたいな。」「もう一度行って確かめてみたいな。」という思いが醸成され得られた結果だと，右の「生活かアンケート」からも考察できる。


生活かアンケート

2年2組　名前【　　】

1. 生活かの時間は楽しいですか？

楽しい　　どちらでもない　　楽しくない

2. 校庭の外と中のどちらで活どうするのがすきですか？

外で活どうするのがすき　　中で活どうするのがすき

3. たんけんかつどうは，すきですか？

すき　なぜ？ {さいたりみたりして　かんさつするからたのしいの。}　きらい　なぜ？ {……}

4. 生きものをとあそんだり，かんさつしたりするのは，すきですか？

すき　　どちらでもない　　きらい

5. さし潮のひがたのことを，どう思いますか？

ゴミとかあるけどちがうところをみたり、すごいしぜんのひがたなとおもった。

6. ひがたであそんだり，しらべたり，絵を描いたりなど，ひがたのべんきょうをして，わかったことや，かんじたこと，思ったことは？

ミオマネキはあきとかなつとかにたくさんいるけど冬には，あんまいでたりしなかったあんまりいなかったです。

7. 「ひがたのひみつはっぴょう会」をして，思ったことを書きましょう。

はっぴょうをしていちねんせいがずーっとみてくれてうれしかったです。

【発表会を終えての生活かアンケート】

3　児童の意識の流れにそった学習計画の工夫

○小単元ごとの学習活動を児童と共に計画した効果

＊貝拾いをしたい→貝の標本やサンゴの風鈴づくりへ
＊土や砂で遊びたい　→ドロ団子づくり
→トンネルやいけすづくり
→カニが出したドロ団子に気付く
→しおまねきの穴に気付く
→生き物のすみかに気付く
→土や砂の特徴に気付く
＊他の場所にも行ってみたい　→生息場所の違いに気付く
→さす島に渡れた喜び
→さす島にはサンゴがいっぱい
＊生き物を持って帰りたい　→飼育・観察→調べ学習へ
→生き物の特徴に気付く

もう一度行って確かめてみたいな。

ひがたのひみつをおしえるね（発表会）

・1年生におしえてあげたいな。

プレゼントをもらってよろこんでたね。

満足感・充実感・成就感

【児童の思いを生かしたオリエンテーションの工夫】

児童が「こんなことしたい」と思ったり願ったりしたことを，実際の活動に取り入れることによって，思いや願いがかなえられ，一人一人が満足する活動が展開できた。また，発表会後の「生活かアンケート」にも見られるように，多様な活動を実現させていく中で，季節による自然の違いや地域の自然を大切にする心，さらに表現活動を終えて後の満足感や充実感を味わったことがうかがえる。

4　表現意欲を高めるための工夫

○発表会の場において，伝える相手や目的意識を持たせた効果

伝える相手や目的を，一年生に「ひがたのひみつをおしえよう」と意識づけたことで『ひがたはかせ』になることを自覚し，より詳しく観察したり調べたりする子が増え表現への意欲が高まったと同時に「一年生に招待状を出そう。」とか「プレゼントには手紙もいっしょに入れよう。」と発表会への期待もふくらんだ。

○発表会の場における工夫

質問やクイズを交わし合うことで，一年生に分かりやすく説明しようとグループのみんなで協力して応答し相手に分かってもらえたことで自信をつけた。また，感想を発表する場を設けたことは，友達のよさに気付いたり，自分の分からなかったことが新たな気付として生まれたりして，一人の児童の発見が他の児童にも共有され学級全体として気付きの広がりや深まりとなったことが児童の自己評価表からもうかがえる。

【１年生がクイズに答える場面】

【１年生にプレゼントをわたす場面】

○干潟の生き物に関する「児童用図書リスト」の活用

関連図書をリストアップし一定期間学級内に常置して，調べ学習に活用させることで，検索の時間が省け，疑問を感じたときに調べたり，確かめ合ったりして調べる学習を持続させることができた。

Ⅴ　研究の成果と今後の課題

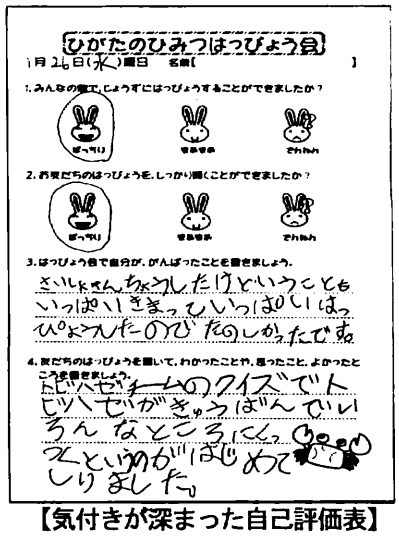
1　研究の成果

(1) 単元の始めにオリエンテーションの時間を設け，活動計画を児童と一緒に立てたことで，児童の思いや願いを実現する活動の展開ができた。

(2) 国語，図工，特別活動，道徳等との合科的・関連的な指導をしたことで，児童が時間にゆとりを持って活動したり，調べ学習を進めながら表現活動に取り組むことができ，教師は児童に寄り添った支援をすることができた。

(3) 身近な地域素材である佐敷干潟を教材化することで，児童が生き生きと干潟にかかわったり，多様な気付きを深めたり，地域に対しても愛着を寄せ自然を大切にしようとする心もめばえた。

(4) 地域人材や父母ボランティア，異年齢交流学習を取り入れることにより内容に広がりや深まりのある学習ができ，活動の安全も保障できた。



ひがたのひみつはっぴょう会

1月26日(水)曜日　名前[　　]

1. みんなの前で，じょうずにはっぴょうすることができましたか？

ばっちり　まあまあ　だめだね

2. お家だちのはっぴょうを，しっかり聞くことができましたか？

ばっちり　まあまあ　だめだね

3. はっぴょう会で自分が，がんばったことを書きましょう。

さいしょさん，ちょっしたけどいうこともいっぱいきまっていっぱいはっぴょうんたのひたのしかったです。

4. 友だちのはっぴょうを聞いて，わかったことや，思ったこと，よかったとこうを書きましょう。

たいへぜチームのクイズでトピックスがきゅうばんていろんなところにってといのがはじめてしりました。

【気付きが深まった自己評価表】

2　今後の課題

(1) 身近な地域素材の中から，四季を通して干潟とかかわらせる体験活動を取り入れた教材開発を重ねる。

(2) 児童の思いや願いを生かすための学習環境の整備や場の設定，人材活用の工夫を図る。

(3) 干潟についての教材研究を深め，干潟の特徴を生かした効果的な学習展開の開発を図る。

＜主な参考文献＞

嶋野道広著	『小学校学習指導要領の展開』	明治図書	2001 年
嶋野道広著	『新しい教育課程と学習活動の実際・生活』	東洋館出版	2000 年
寺尾真一著	『生活科授業づくりの新提案』	明治図書	1996 年